

(3) 水産物の流通・加工の概況

本県水産加工業は、塩釜、石巻、気仙沼及び女川を中心とした大型産地魚市場への豊富な水揚げに支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。

国際的な規制により、本県漁業が北洋漁場から撤退した後は加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも常に全国上位の生産を誇っています。

県内における平成22年の製造品の業種別出荷額を見ても、食料品出荷額（5,732億円）のうち、水産加工品は2,327億円と食料品出荷額全体の約41%で、本県において極めて重要な地場産業であることが分かります。

イ 水産加工生産

水産加工業は、本県の地域経済を支える重要な産業として発展してきました。

しかし、近年漁獲量の減少に伴い県内産地魚市場への水揚げ量が減少していること、輸入原魚への依存度が高まる一方で世界的な水産物消費の増加により輸入原魚の安定確保が困難になっていること、国内における魚介類の消費が低迷していること等から、生産量は、ここ数年は横ばい傾向にはあるものの、ピーク時に比べ低い水準となっています。

また、生産額においても、生産量の減少に加え、量販店等川下主体の価格形成を余儀なくされていること等から、生産量と同様、低い水準で推移しています。

平成22年の本県水産加工品生産量は約38万トン（対前年比78.1%）、生産額（水産加工品製造出荷額）は2,327億円（対前年比91.6%）であり、前年に比べて減少しました。

品目別で見ると、生産量では、生鮮冷凍水産物が252,730トン（対前年比71.2%）と前年より大幅に減少しました。

一方、出荷額では、かまぼこ類を代表としたねり製品が417億円（対前年比92.0%）、冷凍食品が647億円（対前年比92.6%）、その他食用加工品が999億円（対前年比89.0%）、冷凍水産物が263億円（対前年比99.0%）と前年より減少しました。

なお、平成23年3月に発生した東日本大震災により、県内680カ所の水産加工場、冷凍冷蔵庫などが被害を受け、震災後の生産は大幅に減少しています。

（生産量：トン、出荷額：百万円）

区分		H18	H19	H20	H21	H22
生産量	ねり製品	×	×	×	×	×
	うち、かまぼこ類	72,501	73,230	63,048	50,793	50,115
	冷凍食品	41,690	43,509	34,372	30,580	30,966
	その他の食品加工品	65,041	65,585	67,124	55,632	50,566
	うち、素干・塩干・煮干・くん製・節製品	4,340	4,779	4,577	4,810	5,733
	うち、塩蔵品	22,989	24,115	25,893	17,724	16,741
	生鮮冷凍水産物	226,296	221,907	240,313	355,001	252,730
計	×	×	×	×	×	
出荷額	ねり製品	44,311	48,124	45,340	45,359	41,738
	冷凍食品	83,149	81,098	79,559	69,878	64,720
	その他の食用加工品	113,746	120,614	121,789	112,285	99,917
	冷凍水産物	27,858	31,846	36,985	26,605	26,335
	計	269,064	281,682	283,673	254,127	232,711

資料）生産量：東北農政局統計部「宮城農林水産統計年報」
出荷額：宮城県企画部「宮城県の工業」

表14 宮城県における水産加工品の生産状況

（注）平成18年以降ねり製品の生産量が非公開となっているが、本県のねり製品の主力はかまぼこ類であることから、平成22年の水産加工品生産量を50,115 + 30,966 + 50,566 + 252,730 = 384,377トン（約38万トン）と推定しています。

ロ 産地魚市場の水揚げ状況

本県には気仙沼、石巻、塩釜及び女川の主要4魚市場をはじめとした10か所の産地魚市場があり、そこに水揚げされる多種多様な水産物は、仙台や築地等の消費地市場を中心に全国各地へ出荷されています。

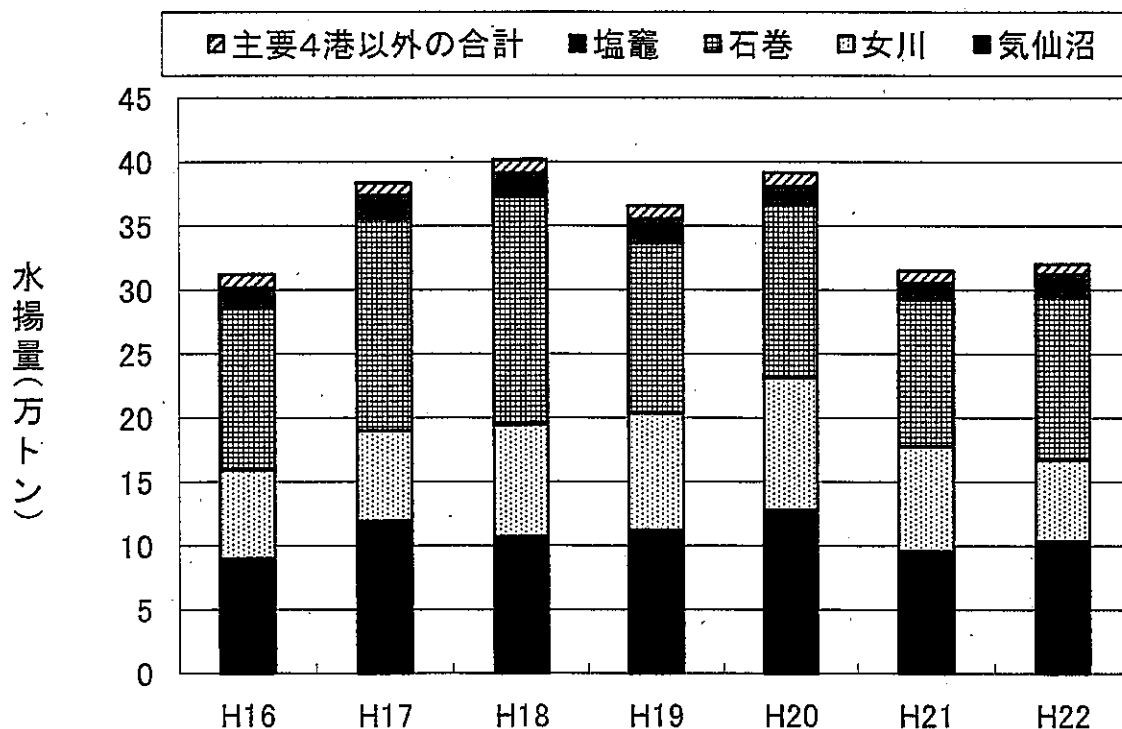
しかしながら、沖合漁業の対象種である主にイワシを中心とした多獲性魚種の資源量が低位水準かつ減少傾向にあること、また、沿岸においても資源量が総じて低水準にあること等から、長期的に見ると、本県産地魚市場における水揚量は減少傾向にあります。近年は、30から40万トン間で推移しています。

また、消費の低迷や安価な輸入水産物との価格競争等により水産物の水揚単価も全般的に低迷しています。

平成22年の本県産地魚市場における水揚量は32万トン（対前年比101.6%）、水揚金額は約610億円となりました。

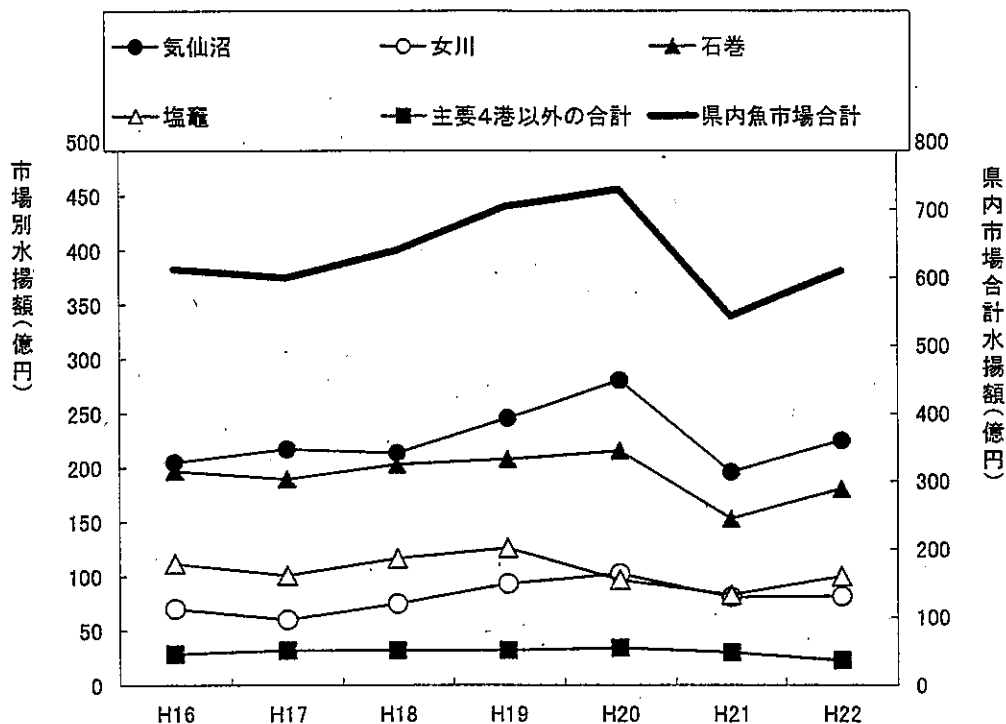
魚市場別に見ると、数量では、塩釜市魚市場が16,825トン（対前年比133.6%）、気仙沼市魚市場が103,609トン（対前年比108.4%）、石巻魚市場が128,678トン（対前年比111.8%）及び女川魚市場が63,414トン（対前年比77.2%）となりました。水揚金額では、塩釜市魚市場が99億9千万円（対前年比120.5%）、気仙沼市魚市場が225億円（対前年比114.8%）、石巻魚市場が180億5千万円（対前年比118.1%）及び女川魚市場が81億6千万円（対前年比100.8%）となりました。

東日本大震災により県内全ての産地魚市場が被災しました。主要4魚市場のうち、塩釜魚市場が最も早い平成23年4月4日に再開しましたが、残りの3魚市場は、6月下旬から7月中旬の再開となりました。震災後1年間の主要4魚市場の水揚合計は、数量が前年同期比の3割、金額が4割程度となっています。



資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚げ統計（属地統計）」

図14 県内産地魚市場の水揚量の推移



資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

図15 主な産地魚市場の水揚額の推移

(水揚量：トン、水揚額：千円)

魚市場名	水揚量				水揚額			
		対前年比	県内船	県外船		対前年比	県内船	県外船
地方卸売市場塩竈市魚市場	16,825	133.6	6,948	9,878	9,991,196	120.5	3,501,380	6,489,816
地方卸売市場気仙沼市魚市場	103,609	108.4	30,404	73,205	22,500,409	114.8	8,346,420	14,153,989
石巻市水産物地方卸売市場	128,678	111.8	76,510	52,168	18,052,781	118.1	12,250,628	5,802,153
石巻売場								
女川町地方卸売市場	63,414	77.2	46,532	16,882	8,159,366	100.8	6,083,471	2,075,896
南三陸町地方卸売市場	6,193	75.0	6,193	0	1,511,211	89.8	1,511,211	0
宮城県漁業協同組合関上支所	242	112.6	242	0	119,464	—	166,101	0
関上地方卸売市場								
地方卸売市場	545	111.7	545	0	268,619	—	268,619	0
宮城県漁業協同組合亙理支所魚市場								
石巻市水産物地方卸売市場	273	75.0	273	0	158,976	81.1	158,976	0
牡鹿市場								
地方卸売市場宮城県漁業協同組合	254	104.1	254	0	224,111	—	224,111	0
七ヶ浜支所花淵浜魚市場								
合計	320,034	101.6	167,901	152,133	609,862,133	—	32,510,917	28,521,854

資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

(注) 平成22年から、関上、亙理、花淵浜市場における「養殖ノリ」の生産量(枚数)・水揚額を集計から除外した。このため、水揚額の対前年比は記載していない。

表15 各産地魚市場の水揚 (平成22年)